

海城中学高等学校  
大迫 弘和 先生

経 歴

東京都出身。東京大学文学部卒。IB教育関連の文部科学省委員、都留文科大学特任教授、武蔵野大学教育学部教授、千里国際学園学園長、千代田インターナショナルスクール東京学園長などを歴任。2023年4月、海城中学高等学校校長に就任。



海城の新時代をつくる

海軍予備校を前身とし、130年の歴史を誇る海城学園。リベラルでフェアな精神を持った「新しい紳士」の育成を掲げ、有為な人材を多く輩出している。2011年に完全中高一貫校となり、進学実績はさらに向上。最難関大学はもちろん、医歯薬系に強い学校としても注目を集めている。本誌では今春から新しく校長に就任した大迫先生取材。同校の教育方針や今後のビジョンについて、お話をうかがった。

IBの第一人者が就任  
新校長の基本方針とは

今春から本校の校長に就任しましたが、これまでの仕事とは本質的に違う点が二つあります。

一つは、海城が130年の歴史を誇る伝統校であることです。私は国際バカロレア（より良い、より平和な世界を築くことに貢献する若者の育成を目的とした国際教育プログラム。以下IB）の関係で、新設校に携わることが多く、ほとんどゼロからの学校作りをしてきました。それに対し、本校は多くの卒業生がいるので、「これこそが海城だ」と納得していただけの学校にしていきたいです。これから帰国生も増えていくと思いますが、様々な多様性を受け

入れながら、脈々と受け継がれてきた本校の伝統を守りたいと思っています。

もう一つは、これまでは共学校に携わってきましたが、本校は男子校であることです。先生方は、伝統ある男子校における生徒への接し方によって形成されているのだと思います。先生方の手法をリスペクトしながら、男子校としてのアプローチ方法を土台として、努力していきたいです。

本校とは対照的な環境で培ってきたスキルや手法を、どのように活かしていくのか、それが今の私にとって重要な課題です。

めざすはWBCの栗山監督  
先生方を支えられる校長に

本校は2011年に完全中高一貫教育に生まれ変わり、今年度で13年目になります。また、海城の改革元年である1992年から31年が経ちました。その改革の間に一定の成果を上げ、社会的評価を受けていますが、本校は次のステージに移る段階にきていると思います。これまで日本国内でのIB教育を先導し、また私立校の責任ある立場で経験してきたことなどを活かし、海城の新時

代をつくっていくことが私の使命だと感じています。

私はもう20年ほど前から校則・チャイム・定期考査などを無くす改革を行い、また探究型概念学習を推進してきました。自分で言うのも変な話ですがカリスマ的といわれることもあります。しかし、海城の校長の仕事においてカリスマ性は不要だと思っています。

まず行いたいことは、WBCの栗山監督のように、優秀な人材の力を引き出すことです。こちらに赴任してまだ間もないですが、先生一人ひとりとじっくりお話しする機会を設けました。そのとき、本校の先生方は優秀なプロフェッショナル集団であると確信しました。だからこそ、



取材時の様子。大迫先生の言葉の一つひとつから教育への真摯な思いが感じられ、新しい海城への期待がますます高まった。

詩人としても活躍する大迫先生。写真は、この春に先生が上梓した詩集「ルリビタキ」。



これまで優れた成果を生み出せたのだと思います。先生方が思う存分に力を発揮していただければ、海城の教育は間違いなく豊かなものになるでしょう。そのために私にできることを考え、先生方を支えていくことが大きな役割だと思っています。それがこそが海城の新時代をつくっていくうえで、重要な方法であると考えています。

卓越した教科指導  
個々の力を一つの生命体に

例えば、中学3年生の卒業論文集（社会科）にしても、中学生によるこれほど優れた論文集はなかなかありません。多くの生徒たちが卒業した後、この経験が役に立ったと先生方に語りに来てくれるそうです。

数学の授業にしても、これほど優れた中等教育があることに驚きまし

た。先生方も自信に満ちていて、正にグローバルスタンダードといえるでしょう。本校は理数系を志望する生徒も多く、この授業を受けられる中高生は本当に幸せだと思います。教科ごとに本当によいものが提供されています。

しかし、それぞれの教科が個別に存在するより、何らかの概念やキーワードで結びつき、一つの生命体になることが望ましいです。先生方がされていることを変える必要はないので、それぞれの学習領域をつなぎ合わせ、一つの生命体にしていくことが、本校がより魅力的になっていく方法だと考えています。そして、そのつなぎ合わせ方を先生方と一緒に考えていければと思っています。それが校長としての最初の仕事と受けとめています。

新校長が思い描く  
海城の次なるステージとは

本校は進学実績も大事にしていますが、それが目標ではなく、「卒業後も人間として成長していける学び」という大きなテーマを改革元年から掲げています。

卒業生は、大学での授業やゼミを引っ張れる存在になっており、すでにそのテーマに明確な答えを出して

います。進学実績の数字だけにこだわらず、日本を代表する中等教育機関となるべく、海城の教育がデザインされていくことはとても重要なポイントです。

そして、小・中・高の学習指導要領に「深い学び」とありますが、深い学びとは何か、それを示すモデルになることも本校の使命だと考えています。先ほど述べたように、各教科のプロフェッショナルが結合して一つの生命体となれば、十分に可能なことだと思います。

もちろん生徒を大事にすることがトッププライオリティですが、この国のなかで本校が果たすべき役割を考え、日本と世界の発展により貢献すること。それを実現させていくことが海城の次なるステージだと思うています。本校の新時代をつくるため、全力で前進していく覚悟です。



中学三年生の「社会科卒業論文集」。一人ひとりが自らテーマを設定し、取材などを行いながら制作した。